編集後記

■……経済財政諮問会議がさる7月22日、成長率について政府見通しを発表、2014年度の国内総生産（GDP）成長率は物価変動の影響を除いた実質で1・2%程度としました。これは昨年12月時点で見込んだ1・4%程度から小幅に下方修正したことになります。これも仕方ないことでしょう。消費税増税を受けた個人消費の低迷や海外経済の減速による輸出の伸び悩みもあったことですし。一方で15年度の実質成長率見通しは1・4%程度と予想。15年10月の消費税率10%を前提にしているようですが、企業の設備投資拡大などが見込まれ、成長率は今年度よりやや上回る、と予想。アベノミクスの成果が出てくれれば、と願うしかありません。

■……家電販売などの個人消費が持ち直し、景況感が改善していることは確か。政府は7月18日付けで消費者庁長官に板東久美子文部科学審議官（60）を登用しました。これまでの阿南久長官に続き2代続いての女性の登用です。現在の消費者担当大臣も森雅子氏ですから、男社会の霞が関（中央官庁街）もこれからサマ変わりしそうですね。板東新長官は1977年、文部省（現文部科学省）に入省、秋田県副知事や内閣府男女共同参画局長、文科省高等教育局長を歴任するなど立派なものです。これからの女性の社会参画のためにもがんばってほしいもの。

■……一方で〝野郎〟の側で恥ずかしい例が。静岡地検の糸山某という検事正（57）が部下の女性職員にセクハラをしたとして、法務・検察当局が更迭する人事を内示しました。この男、部下職員たちとの会席の場で、この女性職員にセクハラ、パワハラに当たる言動をやってのけたというもの。裁判所、検察庁、警察などでは女性の登用はなかなか難しく、昔風に言えば〝男社会〟。そんな世界だけに、よっぽど謹厳にして実直でなければ生きていけません。人を裁くという権力をふるう代償として厳しく自らを律する。まあ当然のことですかね。

■……東京都議会のセクハラやじ問題もお粗末極まりない話でした。独身女性議員に対する個人攻撃かと受け止めたくもなります。ずいぶん波紋を呼び、ついに海外のマスコミ英ガーディン紙などは「性差別主義者による虐待か」と批判していました。本会議場で発言している女性議員に対し「早く結婚したほうがいいんじゃないか」「産めないのか」。この下品なヤジを飛ばした男性議員は、自分が掲げる重点政策に「女性が働きやすい社会の実現を」とうたっているそうで、これこそあいた口がふさがらない。この直後、衆議院の議会でも女性の衆院議員が同じようなヤジを男性議員からあびせられたそうで、詩人で社会学者の水無田（みなした）気流氏（注・女性）は「あからさまな偏見に満ちた暴言。速やかに政策討議の場から立ち去っていただきたい」と批判しています。

■……あのテレビで泣き叫んだ兵庫県の前県会議員野々村某（47）は温泉街や東京などへカラ出張を34回も繰り返していましたが、ついに市民3団体が「政務活動費の収支報告書は虚偽や不可解な支出でほとんどが占められている」として告発しました。警察もそろそろ詐欺か何かで調べて逮捕してもよさそうなもの。ここでも改めて議員の資質が問われています。いやはやまったく情ないお話。

月刊公論 MONTHLY KORON
9月号 第47巻9号
平成26年9月1日発行　毎月20日発売
本体価格848円（税別）　送料84円

発行人　大中吉一　　編集人　田崎義信　土井正彦
発行所　株式会社財界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611㈹、FAX.03-5379-5616
印刷所　株式会社廣済堂
取次店　トーハン／日本出版販売／大阪屋／栗田出版販売
●直接ご購読をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。